



今年の高校入試の分析からこんなことがわかりました！

合格者の社会の平均点は、59.5点


☆正答率(※)が高かったのは、各分野とも基礎的・基本的な知識を問う問題です。特に、歴史的分野及び公民的分野の学習をとおして、知識及び技能の定着が図られています！



特徴的な問題を見てみましょう！

1 地理的分野

2(5) 保則さんは、資料1の下線部dに関して、宮崎県についても調べていく中で、資料5を見つけ、「なぜ水産物の輸出を拡大する取り組みがみられるのだろうか」という疑問をもち、新たに2つの資料を使って、下のような仮説を立てました。
保則さんが仮説を立てるときに、根拠とした資料として適切なものを、下のア～エから2つ選び、記号で答えなさい。

資料5	水産物の輸出拡大に向けた宮崎県の取り組み
	宮崎県では、ブリの養殖が行われており、生産拡大が見込まれる養殖業を、県は成長産業と位置づけ、大型の生けすを整備して、輸出拡大に向けた取り組みを進めている。 2020年、国は宮崎県をブリの「輸出産地」の一つとして選定し、重点的に支援することを決めた。 <small>(「宮崎県水産白書」他より作成)</small>

保則さんの仮説

資料5の「輸出産地」の事例のように、水産物の輸出を拡大する取り組みがみられる要因の一つには、日本の水産物の国内市場が縮小していることがあるのだろう。

- ア 日本の人口推移と今後の予測値を示した資料
- イ 日本のある年における都道府県別漁獲量を示した資料
- ウ 日本の水産物輸入先の国を地図上に示した資料
- エ 日本の1人1年あたりの水産物購入量の変化を示した資料

<標準解答>

ア , エ

<ねらい>

この問題は、日本の水産業における輸出拡大の取組について、資料を基に考察し、適切な内容を判断する問題でした。

<分析>

正答率は13.1%でした。課題としては、地理的課題の解決に向けて選択・判断したりすることや、思考・判断したことを説明したりすることができていないことなどが考えられます。

<提案>

授業では、現実社会において生徒を取り巻く多種多様な地理的課題に対して、考察、選択・判断したことを、資料等を適切に用いて論理的に示したり、その示されたことを根拠に自分の意見や考え方を伝え合い、自分や他者の意見や考え方を発展させたりするなどの工夫も必要です。



「分かる！できる！」まで教えよう！(授業改善のkeyword)
各問いの出題内容・ねらい及び正答率は裏面をご覧ください！
詳しい分析は、報告書や県教育研修センターのHPをご覧ください！

(※)正答率については、合格者3,205人の中から、無作為に抽出した613人(19.1%)分のデータです。